

講義 2 川田学さん

2021年1月24日13:00-14:05

乳幼児期の発達と生活： 信頼の中間共同体としての〈保育〉を考える

人間の孤立化がコロナ禍によって加速しています。孤立化は、子どもの発達と能力を「個人」に閉じ込め、おとなたちの迷いが、子どもたちを早期競争と分断へ追い立ててしまう。そのような社会では、子どもたちは幼い時から「不安」をベースに自己形成してしまうと川田さんは考えます。乳幼児期の発達と生活について大切な視点や課題を考えあいたいと思います。

(講師プロフィール)

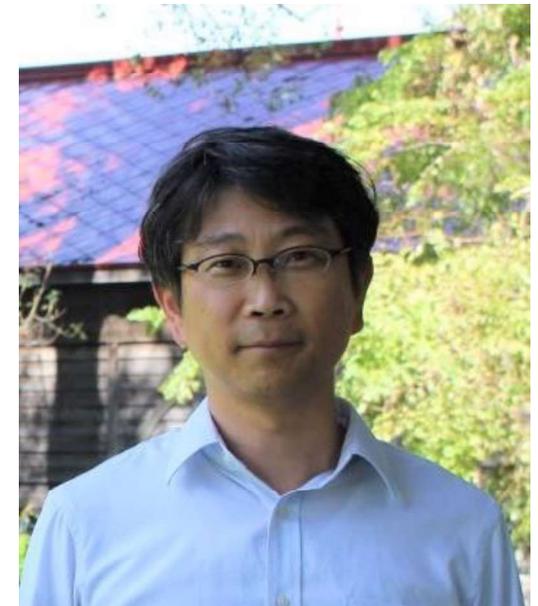
1973年東京都生まれ。北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター准教授。博士(心理学)。香川大学教育学部・講師、同・准教授をへて、2010年より現職。こども発達臨床研究センターでは、子どもの発達と、その子どもが生きるコミュニティの発展とを一体的に理解する枠組みを共同研究されています。人間発達研究所では、2014年に開催した発達診断セミナー心理専門職コースでご登壇いただきました。専門は、発達心理学、保育・幼児教育。

著書

『保育的発達論のはじまり：個人を尊重しつつ、「つながり」を育むいとなみへ』(ひとなる書房、2019年)

『新・育ちあう乳幼児心理学：保育実践とともに未来へ』(心理科学研究会編、有斐閣、2019年)

「乳幼児の遊びをめぐる「貧困」とは何か：この20年余りで子育て・保育を困難にしてきた構造的背景をめぐって」『臨床教育学研究』7(2019)



人間発達研究所主催
人間発達講座
自分づくりを生きる わたし 第3回